

第40回公演「久美・美容室物語」

団長の独り言

「久美・美容室物語」その3

場当たりが始まる。

緞帳幕が下ろされ、客席の明かりが入り、劇場はお客様をお出迎えする状態。私が座る演出席の隣には、照明の唐沢さんがインカムを付けて、譜面台に台本を置いて、険しい表情で光調室にいる照明スタッフの方に何やら指示を出している。そのインカムは、舞台監督さん、照明さん、音響さんが皆付け、同時に会話出来るようになってる。

一応、私用のインカムも用意してただいているので頭につけてみると、高橋さんの落ち着いた声が聞こえてきた。

「では、場当たりを開始します：：野中さん、1ベルをお願いします」

舞台監督の指示で、音響の野中君が「劇団ふあんハウスの1ベル」を流してくれる。劇場に備え付けのベルもあるのだが、劇場のベルって、「ブザー！」というブザー音なので、どうも色気ないというかなんというかなので、24年前の第1回公演の時、野中君が独自のベルを用意してきてくれて、それ以来、ズーッと劇団ふあんハウス公演の開演をお知らせするベルは、「♪チャンチャンチャンチャチャチャンチャンチャンチャン♪」なのだ。(すみません文字にするとこんな感じなんです)

それにしてもこのリズム、何度聴いても妙に緊張するよねえ。

そのあとにボイスエマノンさんの場内アナウンスが入り、数分後、音楽プースに座るアマティアズに合図が行くと、アマティアズがオリジナルの開演テーマミュージックを弾き始める。

その音楽に合わせて場内が暗くなりはじめ、インカムから「緞帳あがります」と高橋さんの声。

ゆっくり緞帳幕が上がリ、シルエットで浮かぶ舞台セットがゆっくり見え、音楽が終わると同時に舞台上全体が明るくなり、舞台セット全体が現れ、誰もいない舞台上「桃子」役のますだゆみさんが、元氣よく登場！

「先生！先生！あら、どこいっちゃったのかしら？もぉ！予約の高木さんが見えですよぉく先生！」

劇団ふあんハウスの幕開きって、毎回大体こんな感じ。

ただ：今では、こんな感じでお芝居が始まる公演って、あまりないかもしれない。いきなり場内が暗くなり、明かりがつけばいきなりお芝居が始まっているのか、まだ客席が明るいの、ブツブツ言いつつながら役者がおもむろに客席から登場して、そのまま芝居が始まるのか、いきなり激しい音楽が場内に流れ、「何がはじまるんだ？」みたいな派手派手な始まり方をする芝居もあって、皆さん幕開きには、かなり工夫を凝らしている。

そもそも緞帳幕自体、最近のお芝居って使われないよね：：。

でも、劇団ふあんハウスはこれでいいの。偉大なるワンパターンを頑固に貫く。

いわゆる「お芝居のはじまりですよ」的な幕開きが私は好きなのだから。

それが劇団ふあんハウスらしきになっているのだから。

松竹新喜劇とか、吉本新喜劇とかも偉大なるワンパターンな始まり方でしょ？

私はこの2つの芝居が子供のころから大好きなので、何かと影響受けているんですよねえ。

さてこの場当たりだが、転換時の照明や音響の変化、色具合、音のレベル、場面転換時の役者の動き、立ち位置、早替が間に合うか？等のチェックを行っていくので、そこに絡む箇所をどんどんで行っていく。

場当たりをしながらゲネプロ(リハーサル)を兼ねるところもあるみたいだけど、私はどーもそのやり方は好きじゃない。

転換に絡む全ての箇所を徹底的にチェックして、照明さんには、「もっとここは赤を強くして」「ここは上手(かみて)をう

ーんと暗くして」「役者をもっと強調して」という指示を出させてもらおうし、音響さんには、「ここはもっとリバーブを効かせて」「BGMは気持ちレベルを下げて」「上手奥、呟く役者のセリフを拾う事って出来ますか？」等の指示を出させてもらおう。

その場当たりの進行は、完全に舞台監督の高橋さんにお任せ。

高橋さんは、どんなに時間がタイトでも決して役者やスタッフさんを焦らせない。じっくり皆さんが納得できるまで繰り返してくれる。

「いらち」の私は「こんなペースで大丈夫かな？」って思う時も過去にはあったけれど、今では高橋さんに絶対的な信頼を寄せているので、時間配分に関して口出しはしない。(いらち：大阪弁で短気でイライラする人)

その代わり、「高橋さん、時間のないところ申し訳ないけど、ここもう一度返させてもらえますか？」とか伺う事はあるけどね：：そんな時でも、「団長、時間的に厳しいので無理ですわ」とは言わないところがすごいよねえ。

それでちゃんタイムスケジュール通りに事が運ばれていくのだからたいしたものです。

もっともそれには、プロフェッショナルな照明さん、音響さん、そして舞台転換スタッフさんのチームワークと機敏な対応が高橋さんを支えているからってのもあるんだけどね。

こんな感じで場面ごとに、照明、音響、転換、役者の立ち位置のチェックをしていくと、あっという間に退館時間30分前。「例の問題点」の解決方法は明日の朝からの場当たりで確認する事となったのでした。